

第68回 AI活用は、いつでも、だれでも、タダで・・・。

「ChatGPT」がリリースされて1年になります。その後、ライバルのBardなども登場し、これら生成AIは、インターネットさえ使えば誰でも、お金をかけずに、すぐに始められることが世間に理解されてきました。今や、「使うか使わないか」よりも、「どう使うか」を考える局面に入っています。

前回メルマガの復習ですが、これら生成AIの留意点として、「個人情報、営業秘密などは入力しない（入力データがAI側のサーバーに送られてしまうから）」「回答は鵜呑みにせず、必ずチェックする（誤りや、偏見を含んだ回答もありうるから）」「著作権などに注意（元データが他者の著作物である可能性もあるから）」の3点だけ気をつければ、あとはどう使っても大丈夫です。まずは「お遊び」のつもりでどんどん使ってみて、慣れてしまうことがまず大事です。

そしてAIの使い方として有効なのは、「聞く」のではなく、「やらせる」「作らせる」ことです。この観点から、今回もプロンプト（指示文）の例を紹介します。いずれも、1回のプロンプトで終らせず、修正の指示や、追加の指示をしてゆくことで、有用な成果物に近づけていきます。

①「北海道の〇〇市のやや寂しい商店街でパンを製造・販売している、障がい者就労支援の事業所です。地元で話題になり、少し強気の価格でも売れるパンの企画を、3つ考えてください。」→「うち、2つ目の企画について、販路やメインのターゲット層を考えてください」→「もっと具体的に」→「その企画を、理事会で発表するためのプレゼン資料を考えてください。」→「もっと説得力を」→「予想される反対意見を3つ挙げてください。」

②「北海道の過疎地の団地前で福祉ショップを運営している障がい者就労支援の事業所です。初めての「新年大売出し」を1月5日に予定しています。このことを役所の広報ページに掲載してもらう際の告知文を書いてください。条件として、①全品5%引き ②営業時間：・・・・ ③目玉商品は・・・・」→「もっと熱意が伝わるものに」→「正月らしさを盛り込んで」→「120字前後に縮めて」→「イメージイラストはどんなものがいいか案を3つ挙げて」

もちろんいずれもイメージ例です。まずは「遊び半分」のつもりでも、こんなことを試していけば、AIに対する抵抗も弱まり、いずれ本格的に活用してゆくことができるでしょう。

（2023年11月25日現在の状況により執筆しています。AIツールをめぐる情勢は刻々と変化していますのでご注意ください。

なお、この記事は、今のところは、人間が執筆しています。）